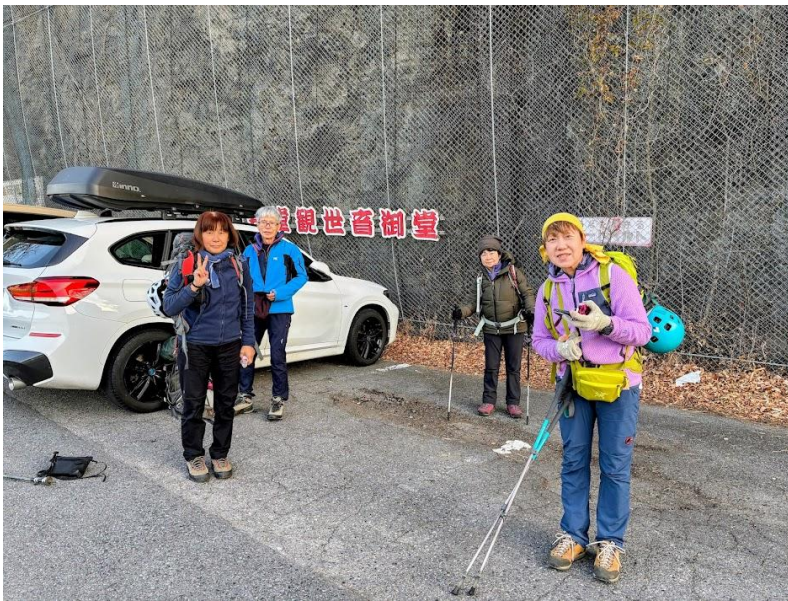


## 上州・岩井堂砦～古城台

T野

- ◆日程：2025年12月13日
- ◆山域：上州
- ◆メンバー：名（T野・I崎・T村m・T村e・A原・M下）
- ◆形態：ハイグレードハイキング
- ◆ルート：岩井堂砦～古城台



まず、「どこにあるのルート？」から始まる。僕もつい最近まで存在すら知らなかった。「山のソナタ」という日本中の「B級グルメ」ならぬ「B級山」をベテラン山屋が訪ね歩いているブログがある。以前は我々と同じ沢登りと山スキーを志向していた方のように、年齢は村ピーとほぼ一緒。いわゆるスーパー爺さんのブログである。

このブログで紹介している山が、これまたあまり知られていない個性的な山が多く、僕の「行きたい山探し」で実に参考になるのである。今や僕のハイキングバイブルといってもよいブログである。

冒頭の話に戻り、今回のルートはどの辺なのか？



■写真上 車をデポした駐車スペース。

■写真下 この橋を渡ればすぐに取り付きだ。





地図を確認すると、真田の城で有名な岩櫃山にほど近い、小野上温泉の裏山的な位置にスクッと聳えているようだ。  
「砦」という名があるくらいなので、きっと歴史的に何かあるに違いない、と思い調べてみると下記のような記述があった。

■写真上 凄い高度感！！

■写真下 岩稜を登る。



#### 【岩井堂砦 歴史】

**白井城**の関門として置かれた城で(⇒ふーん、一応、城なんだ！！)、延久年間(1069～74年)山田太郎為村が築き(⇒古っー！！平安時代か！！)、数代にわたり村上氏が城主であった。その後、下川辺朝村氏、藤原氏の居城となった。(⇒知らん名だなあ～)

戦国時代、上杉氏と武田氏の抗争時には、互いの動向を見定める絶好の場所として、争奪戦が繰り広げられた。(⇒ようやく、知ってる名前が出てきたぞ！！)

天正七年(1579年)真田昌幸の臣・海野長門守が城主となり、白井や遠く前橋まで睨みを利かせる要衝であったという。

ちなみに、説明の最初に出てきた白井城ってどんな城？ と調べてみると…

渋川市内の利根川と吾妻川の合流点の、河岸段丘上に築かれた平山城の跡。山内上杉氏の配下で家老職を勤めた長尾一族のうち、白井を本拠とした白井長尾氏の居城であった。築城年代は明らかでないが、15世紀半ば頃の長尾景仲(かげなか)の時代であると考えられている。天正18年(1590年)、豊臣秀吉の小田原攻めで、前田利家、上杉景勝の軍勢に敗れて



開城、白井長尾氏の支配は終わった。以降は藩主がめまぐるしく変わったが、元和 9 年 (1623 年) に白井藩が廃藩となり、白井城も廃城となった。現在でも、本丸出入口に石垣の虎口が残るほか、三日月堀、土塁などの遺構が見られる。

とある。なるほど・・・よくわからないが、どうやら歴史ロマンに触れられる砦のようだ。説明によると、砦付近には堀切も残っているようで、きっと見る人が見ればわかるのであろう。



さて、その岩井堂砦だが、標高は 500m にも遠く及ばない。しかし、最初から最後までクサリやロープなしでは登れないくらい急峻で、チビのくせに思いっきりヤンチャなツツパリ小僧のような山である。砦まではクサリを張り巡らせ、ルートは整備されているが、砦から 458m ピークまでは途中からは全くの無法地帯。登るなら登攀装備が必携となり、一筋縄ではいかない厳しさがある。それにしても、上州の山はホントに独創的な山が多い。まだまだ知らない面白い山が眠っているのだろうか？

■写真上 ここが岩井堂砦だ。

■写真下 458m ピークまでは岩峰の連立する岩稜が続き、厳しそうだ。



今回は初見ということもあり目的は「登頂」ではなく、あくまでも「視察」である。岩藪バリエーションが楽しめそうなので、まずは様子を見てこようと思う。ということ

で報告です。

T 村車、T 野車に分かれてそれぞれ出発。8 時前に「道の駅こもち」で上州在住の I 崎さんと合流。ちなみに、先程紹介した白井城は地図で確認すると「道の駅こもち」のすぐ傍にあるようだ。





■写真上左 岩の上はさらに急峻になる。

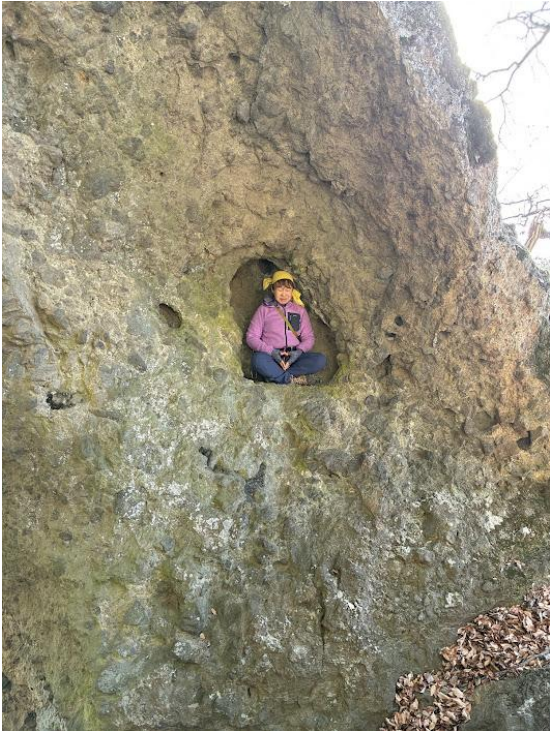
■写真上右 ないフリッジが続く。

■写真下 石橋、ここから先はほとんど整備されていない。

岩井堂岩直下にある駐車スペースまで行き、車をデポして8:15 出発。小さな沢に架かる橋を渡ると早速急登が始まる。すぐにクサリが現れ、左右にあるクサリが、ちょうど柵の役割を

果たしているの、怖い思いをすることなく登って行ける。ただ、傾斜は相当なもので、もし、このクサリが全くなかったらロープなしでは不安になる場所がそこかしこにある。





グイグイ登って行くと10畳ほどの平らな見晴らし台のような所に出る。横には「お堂」らしきものもある。どうやらここが岩井堂砦のようだ。なるほど、眼下の街の様子が手に取るように望め、砦としてはホントに好都合な場所である。背後には458mピークからいくつもの岩峰を従えながら尾根が落ちている。この尾根が458mピークへの登攀ルートのような。ここから先は武士の領域ではなく、完全に登山者の領域である。

■写真上 修行中！！

■写真下 古城台にある岩潜り。デブには無理かも・・・。



クサリはさらに先に延びているので行ってみることにする。途中、下山専用のルートを分けると、ますます急峻になり、攀じ登るようなところもある。眼下を見下ろすとスゴイ高度感で、高いところが苦手な人には決してお薦めできない山である。ただ、我々は「それがおもしろい！！」というメンバーなので非常に楽しい。やがて、顕著な石橋が現れる。面白い地形だが、妙義や房総、二口などで似たような地形を見たことがある。この石橋の下を潜り、固定ロープを頼りに滑りやすい急峻な土壁を登る。登ったところは岩稜になっていて、ギャップに降りるのが難しい。ここはロープを使用して、上でI崎さんに確保してもらい、降りて見ることにする。結構振られるのでバランスが必要だ。ここは仮に全員で突破したとしても、戻るのが大変そうで、危険を感じたので、無理をせず今日はここまでにする。ただ、先が気になるので、僕は試しにさらに岩峰の右側を慎重にトラバースしてみると、そこからは何とかルートが繋がって見えるので、ここは次回、万難を排してリベンジしてみたいと思った。多くの記録を見ると、やはりこの岩稜の上から引き返している記録が多いので、ハイキング気分で訪れ

た今回はこれが正しい選択であったと思う。





さて、復路も慎重に下降して、先ほどの土壁は懸垂下降で降りる。せっかくロープを持参しているのが安全第一である。降りたところには、昔、行者が修行したのでは・・・？ と思える人工的な岩穴があり、行者の気持ちになって無の境地に・・・。

下山専用ルートもハシゴとクサリの連続する道で気が抜けないルートを降りていく。やがて、荒れた竹林に入ると下界はすぐそこであった。



■写真上 古城台にある胎内くぐり。上州はこういう奇岩が多い。

■写真下 小野上温泉にあった注意書き。ホントにこんな人いるのだろうか？・・・いるんだろうな～。

次は古城台に向かう。しばらく車道を行くが、この車道は石灰岩の碎石場からのトラックの往来が激しく、風情も何もないのでミスルートであった。もう少し先に遊歩道があり、そちらの方が歩いていて断然楽しいと思う。また、鑛沢川沿いの道は野仏めぐりコースとして紹介されているので、このルートから古城台を周遊しても良いと思う。

我々は碎石場からのトラックが行き交う車道から行ってしまったが、ハイキングコースに入ると、ようやく静かな山を楽しむことができた。古城台コースは岩井堂砦と違って完全に整備された遊歩道で安心して歩ける。途

中に、狭い岩を潜って登るところがあったり、「胎内くぐり」と呼ばれる岩穴を見学したりとアトラクションも豊富だ。ただ、いくつかある岩峰は、いずれも登ることができないのが少し残念だ。無難に歩いて、車道に出れば、車のデポ地まではもうすぐであった。



今日の温泉は麓にある「小野上温泉」。¥410 と格安で、広くて露天もサウナもあって非常に良かった。笑える注意書きもあり、「ホントにこんな人いるの？」と思わず疑いたくなったが、きっといるのであろう。

下山飯は地元の I 崎さんお薦めの「中華料理・四川」。なかなかの人気店で五目焼きそばは食したが美味しかった。次回はタンタンメンかな？

今日はここで解散。12 月の冬枯れの時期でも・・・否、だからこそ楽しめるルートだった。一緒に行っていただいたメンバーには感謝！！

次回はぜひ 458m ピークに立ち、唐沢山まで繋げてみたいと思う。その時はまた宜しくお願いします。

#### ■コースタイム

岩井堂駐車スペース (8:15) ～

(9:00) 岩井堂砦 (10:01) ～

(10:35) 車道～ (11:07) ハイキングルート入口 (11:26) ～ (11:40) 古城台最高点～ (12:18) 車道 (12:28) ～

(12:40) 岩井堂駐車スペース

#### 今回の軌跡